



中国日本商会

今どきコラム-123

中国雑談

消費の悪化レベル

内需を反映する最も主要な指標は消費だが、このところ人々に懸念を抱かせる低迷ぶりが見られる。

国家統計局が9月15日に公表したデータによると、8月の社会消費財小売総額は3兆4395億元で、前年同期比2.5%増だったが、7月の前年同期比8.5%増から大幅に下落した。

『財新メディア』が近ごろ国内外にある16の市場研究機関に対して行った調査によると、これらの機関が予想した8月の社会消費財小売総額の前年同期比増加幅の平均値は6.5%で、事実の値は予想より4ポイントも低かった。

さらにとりわけ注意に値する点は、これより前に新型コロナウイルス感染症の感染者数がリバウンドした期間にはオンライン商品の消費が高まったにもかかわらず、7月の新型コロナウイルス感染症の再拡大の時には、オンライン商品の消費は非常に振るわなかったということだ。8月のオンライン商品小売総額の二年間の平均成長率は10.6%で、7月から7.1ポイントも下落した。これまでの経験から見ると、新型コロナウイルス感染症の感染者数がリバウンドするたびに、通常はオフライン消費が抑えられる一方で、オンライン消費が増加し、オンライン消費の成長率と全国の新型コロナウイルスの流行の深刻度はまさしく関係していた。しかし、8月のオンライン消費データでは明らかにその相関関係が弱まっていた。これは多くの人々にとって意外とも言える新たな状況だった。

今年の経済回復の状況を見ると、中国経済の投資、消費、対外貿易の輸出入という「トリカ」において、投資は政府と政策が強く関与できる分野であり、短期政策によって手早く



顕著な効果を奏することができる。輸出は主に外部市場のニーズに依存し、世界各地の新型コロナウイルスの流行レベルに差があるため、製造注文が中国に流れており、それが中国による輸出の急速な成長を刺激している。消費だけが主に市場に依存しているもので、政策による関与の効果は鮮明ではなく、且つ中国は消費に関与する政策をあまり多く打ち出していない。つまり、消費は真の経済状態を垣間見ることができる確かな窓口であるということだ。

万博新経済研究院の研究者である藤泰氏と張海水氏は近ごろ、「走れば走るほど速度が落ちる選手が、内部循環の大旗を翻した」と題する記事を発表した。両氏曰く「走れば走るほど速度が落ちる選手」とは現在の国内消費のことだ。同記事によると、表面的に現在の消費成長の低下は新型コロナウイルスの予防・抑制の影響によるものだが、実際は**市民所得の成長の伸び悩み、悲観的な経済予測、また限界消費性向の低下**などが、真に注目に値する**根深い原因**なのだ。さらに電力不足が深刻化する中、供給（サプライサイド）の面でも不足となり、中国経済が下降圧力にさらされていくと思われる。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com